

# 世界で広がるカーボンプライシング

## 世界銀行（2017）「State and Trends of Carbon Pricing 2017」

### ■ 2017年時点で、42の国と25の地域がカーボンプライシングを導入

- これらは世界の排出量の約15%をカバーし、2017年末に導入予定の中国全国ETSにより、20~25%に拡大する見込み。

### ■ 155ヶ国中81ヶ国が、NDCs※1においてカーボンプライシングの導入・検討に言及

- これらは世界の経済上位5位に入る中国、日本、インドを含み、世界の排出量の約55%をカバーする。

### ■ 社内炭素価格を導入した企業は、2016年から11%増加

- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の勧告により、社内炭素価格を採用する企業のさらなる拡大が予想される。

### ■ パリ協定の目標を達成するために、さらなる前進が必要

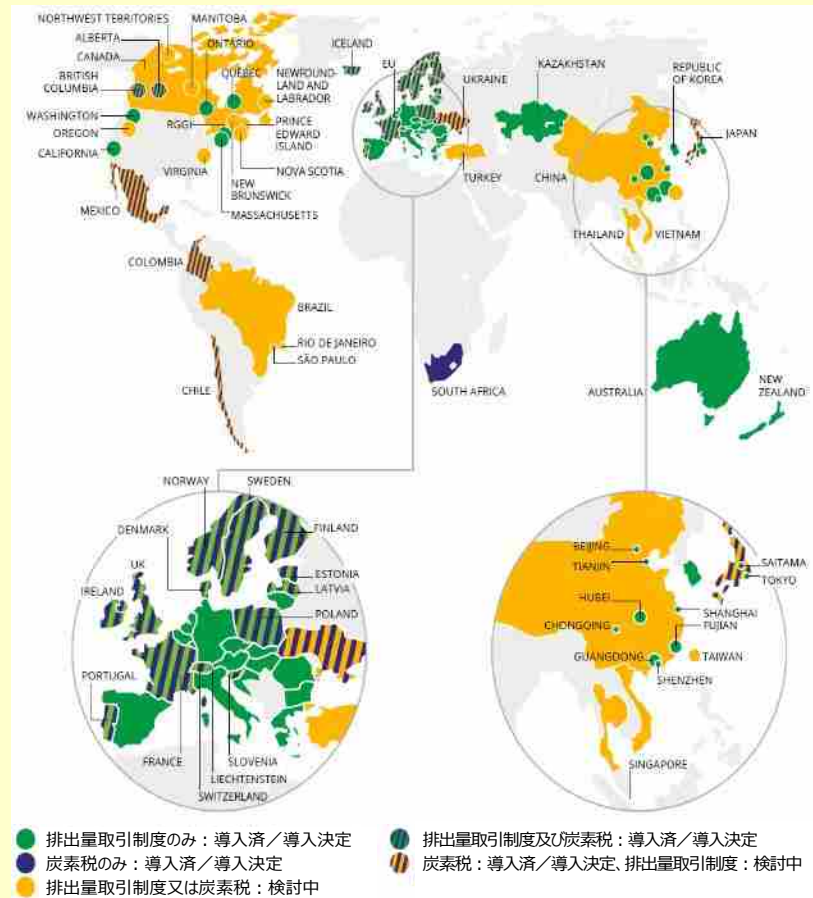
- 炭素価格でカバーされる排出量の約4分の3は10米ドル/tCO2未満。これはパリ協定の目標と整合する水準（2020年に40~80米ドル/tCO2）※2より大幅に低い。

### ■ 他の政策と整合をとりつつ、カーボンプライシングを実施することが重要

- 気候金融や国際的な炭素市場を国内施策と整合的に実施することが、パリ協定実現のための、資源の有効活用につながる。
- カーボンプライシングは、特に他の適切な施策と補完的に実施された場合に、エネルギー構造の変化に貢献する。

※1 Nationally Determined Contributionsの略。パリ協定に基づき、各国が自国のGHG削減目標と目標達成の為の緩和努力を国連に提出する。本報告書の集計時点では155ヶ国が国連に提出済。パリ協定以前のINDCs (Intended Nationally Determined Contributions) は189ヶ国が提出。

※2 High-Level Commission on Carbon Prices (2017) 「Report of the High-Level Commission on Carbon Prices」で提示された水準。



【図】世界で導入されているカーボンプライシング（2017年時点）

# 気候変動の影響への適応とは

- 緩和とは： 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出抑制等
- 適応とは： 既に起こりつつある、あるいは起こりうる気候変動の影響による被害を回避・軽減する

## 温室効果ガスの増加

化石燃料使用による  
二酸化炭素の排出など

## 緩和

温室効果ガスの  
排出を抑制する

## 気候要素の変化

気温上昇、  
降雨パターンの変化、  
海面水位上昇など

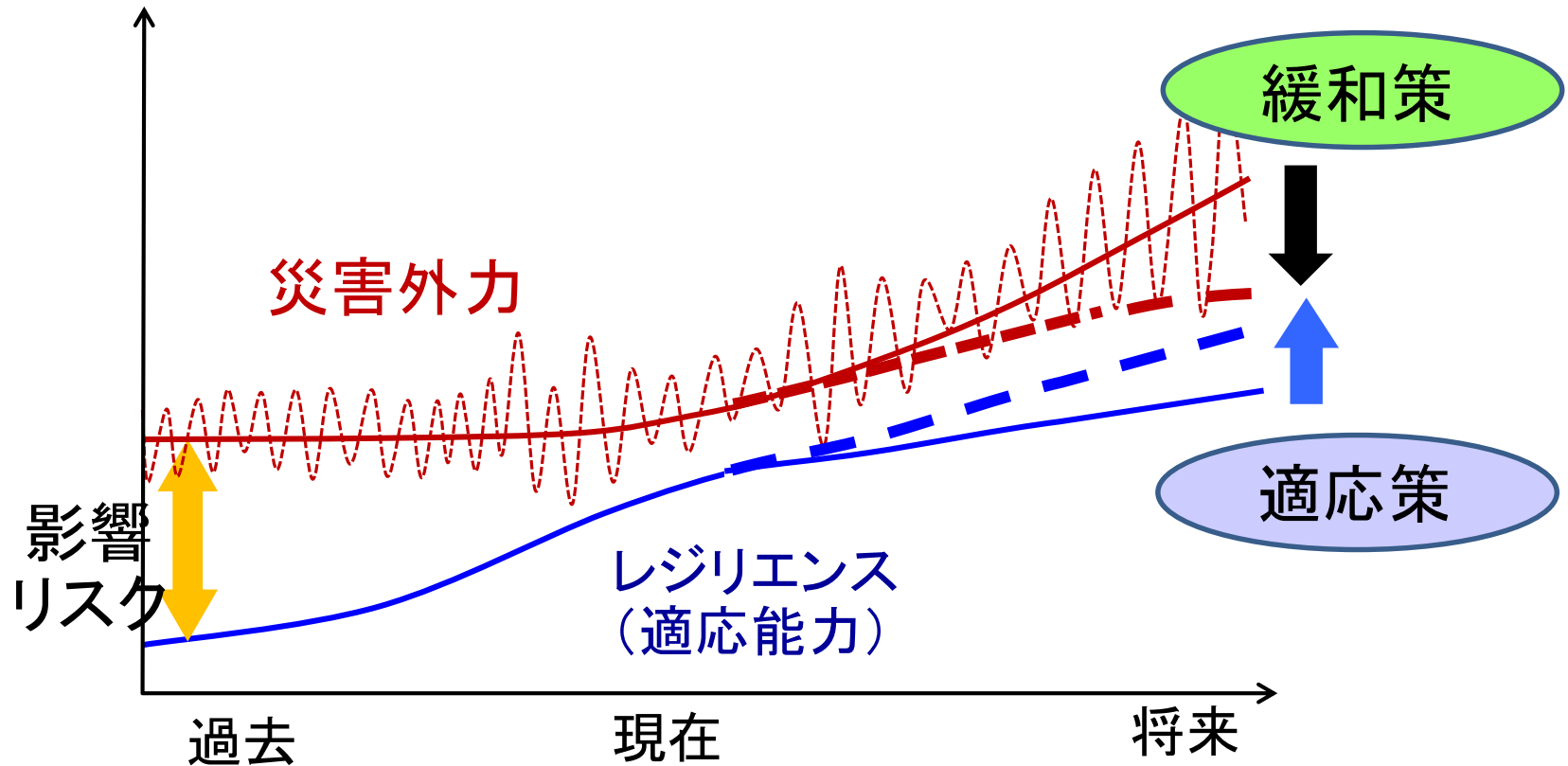
## 温暖化による影響

自然環境への影響  
人間社会への影響

## 適応

被害を回避・  
軽減する

# 適応策の役割



茨城大学三村学長提供資料 (九州大学 小松名誉教授資料を改編)

- ・緩和策と適応策は、気候変動のリスク管理の両輪
- ・適応策とは、社会のレジリエンス(適応能力)を高めるもの